

授業科目	倫理学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	看護の対象を理解するためには、人間について深く考える必要があります。生命を尊重し、人間の尊厳を守るために、人間の存在や価値について理解し、人間の尊厳・生きることの意義について考えるとともに、倫理的判断・行動がとれるための基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 人間の存在価値とは	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 人間とは何か、生命の尊重、人権、多様な価値観について学習します。			講義
2	倫理とは	倫理とは、倫理についての歴史について学習します。			講義
3	生命倫理の原則とは	生命倫理の定義・背景、倫理の原則について学習します。			講義
4	医療における生命倫理	医療現場における倫理的問題について学習します。			講義
5		生命倫理の4原則を用いた倫理問題の検討について学習します。			講義・GW
6		生命倫理の4原則を用いた倫理問題の検討内容について共有学習します。			講義/GW
7	先端医療における生命倫理とは	先端医療と制度をめぐる生命倫理について学習します。① (移植医療・再生医療 など)			講義
8		先端医療と制度をめぐる生命倫理について学習します。② (遺伝子医療・制度と倫理 など)			講義・GW
9	性と生殖の生命倫理とは	性と生殖における倫理的問題について学習します。①			講義
10		性と生殖における倫理的問題について学習します。②			講義
11	死の生命倫理とは	死に関する生命倫理について学習します。①			講義
12		死に関する生命倫理について学習します。②			講義
13	医療現場の倫理的問題とは	医療現場における倫理的問題へのアプローチについて学習します。			講義
14		事例における倫理的問題の判断と倫理的行動についてグループ学習します。			講義・GW
15		まとめ・試験			
テキスト	マンガで学ぶ生命倫理 (化学同人)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	情報科学 I	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	情報社会に関心をもち、情報化に対応し、情報モラルについて理解したうえで、情報を活用するための基礎的能力、医療現場における ICT 活用に関する基礎的知識を養うための科目として学習します。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 情報社会とは	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) Society5.0 の社会とはについて学習します。(ICT、AI・IoT 等)			講義 DVD
2	情報リテラシーとは	情報、情報活用能力とは何かについて学習します。			講義
3	コンピュータ・ICT 機器の仕組み	コンピュータや ICT 機器、アプリやソフトの仕組みと活用の実際について学習します。			講義・演習
4	情報管理とは	情報を活用するうえでの情報管理及びその方法、リスクについて学習します。			講義・演習
5	情報倫理とは	情報を活用するうえでの情報モラル・倫理的行動について学習します。			講義・演習
6	医療における情報とは	医療における情報システムについて学習します。			講義 DVD
7	医療現場における ICT 活用とは	地域医療福祉のネットワークと情報システム、ICT 活用の実際について学習します。			講義・演習 DVD
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院) 講師資料				
参考図書等	系統看護学講座 別巻 総合医療論 (医学書院)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	情報科学Ⅱ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	情報システムに関心をもち、情報科学の基礎を理解したうえで情報化に対応し、統計の目的・意義・情報処理の活用方法について学び、コンピュータの基本操作を習得し今後の看護の学習に活かすことができることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
	情報収集とは	既存の情報収集の方法について学習します。(文献検索)			講義・演習
2	コンピュータの基本操作 (Word)	Word を使用し文書作成、画像、描写などを利用しコンテンツを作成します。			講義・演習
3	コンピュータの基本操作 (Excel)	Excel を使用し表計算・数式・関数・グラフ作成の実際について学習します。			講義・演習
4	Excel による統計処理とは	Excel を使用した統計解析の種類や方法について学習します。			講義・演習
5	Excel による統計処理の方法	Excel を使用し統計解析の実際について学習します。			講義・演習
6	PowerPoint による情報発信	情報発信のための PowerPoint 資料の作成方法について学習します。			講義・演習
7	PowerPoint 活用したプレゼンテーション	プレゼンテーションに適した PowerPoint 資料の作成し、情報発信の方法について学習します。			講義・演習
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院) 講師資料				
参考文献等	生田敦司 他： 情報リテラシーの基礎				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	論理学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	論理的思考に基づいた考えを人に伝えるための文章表現を学び、小論文作成能力を身につけることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	論理、論文、クリティカルシンキングとはについて学習します。			講義
3		文章の組み立て、レポート、報告書の書き方、原稿に使い方について学習します			講義
4		わかりやすく簡潔な文章について学習します			講義と問題演習
5		接続の論理、接続の構造について学習します			講義と問題演習
6		論証の構造と評価について学習します			講義と問題演習
7		演繹と推論について学習します			講義と問題演習
8		意見と事実、否定について学習します			講義と問題演習
9		条件構造について学習します			講義と問題演習
10		推論の技術について学習します			講義と問題演習
11		批判的視点について学習します			講義と問題演習
12		小論文の構成、著作権、注意点について学習します			講義と問題演習
13		序論と結論の書き方について学習します			講義と問題演習
14		本論の書き方について学習します			講義と問題演習
15		まとめ・試験			
テキスト		福澤一吉著：看護学生が身につけたい論理的に書く・読むスキル (医学書院) 講師資料			
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	心理学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	看護者は自己理解と他者理解が必要です。人間の心や行動の変化を学び、発達心理・社会心理の側面から対象を理解する必要があることから人間の成長、発達に伴う心理的特徴に理解し人間の心理と行動を多面的に捉え看護に活かすことができる能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 心理学における基本的考え方、看護と関連した心理学領域について学習します。			講義
2		発達の原理について学習します。			講義
3		発達段階における心理的発達の特徴、教育との関連性について学習します。			講義
4		知覚・認知に関連した心理について学習します。			講義
5		学習理論・行動理論について学習します。			講義
6		動機付け理論、自己教育力・生涯学習について学習します。			講義
7		人間と環境の関係について学習します。			講義
8		自己と自我について学習します。			講義・DVD
9		適応・不適応について学習します。			講義・DVD
10		適応機制について学習します。			講義
11		危機理論について学習します。			講義・DVD
12		障害受容について学習します。			講義/DVD
13		集団の形成と機能について学習します。			講義
14		集団行動の心理について学習します。			講義
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座	基礎分野 心理学 (医学書院)			
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	人間関係論	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	人間が常に成長発達していくためには教育が必要であること、人間は対人関係の中で成長発達していることを理解します。そして、看護者は社会・医療における人間関係の重要性を知り、目的に応じた役割を担う能力が要求されるため、人間関係を築くための基礎的知識と技術を学ぶことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 人間発達と教育との関連性について学習します。			講義
2		自己成長と評価について学習します。			講義
3		自己教育力・生涯学習について学習します。			講義
4		人間関係論とはについて学習します。			講義
5		自己認知、対人認知について学習します。			講義・演習
6		対人関係の成立、維持と崩壊について学習します。			講義
7		対人葛藤と対処について学習します。			講義・GW
8		対人関係における社会的役割について学習します。			講義
9		態度と対人変化、説得的コミュニケーションについて学習します。			講義・GW
10		対人関係における攻撃、援助について学習します。			講義
11		カウンセリングの基本について学習します。			講義
12		集団や個人を取り巻く人間関係について学習します			講義
13		ピアサポートを通じた人間関係について学習します。			講義
14		人間関係の集合としての地域の力、社会について学習します。			講義・GW
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 .基礎分野.人間関係論. (医学書院)				
参考図書等	岩崎 久志 : 対人援助に活かすカウンセリング (晃洋書房)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	健康環境論	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	環境とは、自然環境という狭義的ではなく、社会的、経済的、文化的、心理的、生物的、化学的な環境など広義的であり様々なものがあります。このような様々な環境が人の健康及び生活に与える影響について最近のトピックスを材題にして学び、今後の環境について考える機会とするとともに看護の学習に活かしていく事を目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
	環境とは	環境は何か、環境と人の健康との関連性について学習します			講義
2	自然環境とは	自然環境が人の健康及び生活に与える影響について学習します			講義・DVD
3	物理的・化学的環境とは	物理的・化学的環境が人の健康及び生活に与える影響について学習します			講義
4	生物学的・社会的環境	生物学的環境や社会的環境が人の健康及び生活に与える影響について学習します			講義
5	居住環境	人が健康に快適に生活できる住まい環境について学習します			講義
6	環境問題	医療現場における人の健康に影響を与える環境問題とその対策について学習します			講義・DVD
7	SDGs とは	SDGs について学習します。			講義
8 (45分間)		試験			
テキスト	講師資料				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	生活文化学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	国際化社会に対応するためには、自国の文化を知り、異文化との共通点・相違点を知り、世界には多様な文化、社会、価値観があることを理解し、人間・社会の見方を広げます。 また、本校を卒業後、兵庫県での民間医療に従事していく上で、兵庫県の文化など兵庫県民の暮らしぶりなどについて理解を深め、看護に活かしていく事を目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
	文化・生活	人間と文化、生活について学習します			講義
2	文化相対主義	文化相対主義とは何かについて学習します			講義
3	家族と社会での生活	個人・家族・コミュニティとしての生活・文化について学習します			講義
4	儀礼	ライフサイクルと通過儀礼について学習します			講義
5	宗教と世界観	世界各地における宗教的实践から世界の文化および人間と死について学習します			講義
6	医療現場における文化	健康・医療・治療場面における文化的多様性について学習します (在日外国人)			講義
7	兵庫県民の生活	兵庫県民の特徴、兵庫県の文化、兵庫県内在日外国人の特徴などについて学習します。			講義 GW
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	家族社会学	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	人間が生活する社会集団、社会の最小単位である家族についての知識が必要であるため、現代社会における家族の構造や機能、社会的課題について学び、社会的存在としての人間の理解を深めます。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
2		社会について学習します。			講義
3		家族について学習します。			講義
4		家族の歴史的变化について学習します。			講義
5		家族の変動について学習します。			講義
6		現代家族と課題について学習します。			講義
7		家族関係について学習します。			講義
8		家族の少子化について学習します。			講義
9		家族の高齢化について学習します。			講義
10		ライフサイクルと家族—性愛と配偶者—について学習します。			講義
11		ライフサイクルと家族—親子関係—について学習します。			講義
12		家族発達段階のライフタスクと危機管理—雇用流動化の家族—について学習します。			講義
13		家族発達段階のライフタスクと危機管理—育児期の家族—について学習します。			講義
14		家族発達段階のライフタスクと危機管理—中高年期の家族—について学習します。			講義
15		これからの家族について学習します。 まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 別巻 家族看護学 (医学書院)				
参考図書等	牟田和恵： 家族を超える社会学 (新曜社) 落合恵美子： 21世紀家族へ 第3版 (有斐閣)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	コミュニケーション論	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	看護者は自分の伝えたいことを相手に理解してもらう必要があることから高いコミュニケーション能力が求められる。また、現代はグローバル化と IT 化により、人間をとりまくコミュニケーションは大きく変化していることから、コミュニケーションの基本をまなび、日々の学生生活や臨地実習に活かせる能力を身に付けることを目的としています。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) コミュニケーション理論、信頼関係を築くことの重要性について学習します			講義
2		言語を用いた対人コミュニケーションの基本について学習します			講義
3		言語を用いた対人コミュニケーション技術 (実技) を学習します			講義
4		言語以外の対人コミュニケーションについて学習します			演習
5		言語以外の対人コミュニケーション技術 (実技) を学習します			講義
6		社会人としての対人コミュニケーションについて学習します			演習
7		社会人としての対人コミュニケーション技術 (実技) を学習します			講義
8		医療現場での対人コミュニケーションについて学習します			演習
9		医療現場での対人コミュニケーション技術 (実技) を学習します			講義
10		カウンセリングの理論と実際について学習します			演習
11		カウンセリングの理論と実際技術 (実技) を学習します			講義
12		アサーティブ理論と実際について学習します			演習
13		アサーシントレーニング (実技) を学習します			講義
14		事例を使いロールプレイを実施し振り返りを行います。			演習
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (医学書院)				
参考図書等	アーネスティン・ウィーデンバック/キャロライン・E・フォールズ コミュニケーション ―効果的な看護を展開する鍵― (日本看護協会出版会)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護医療英語	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	現在、日本での外国人の居住者が増えている中、医療に関連した施設において看護していく上で必要な英会話ができることを目指し、医療・看護の場で用いる医用英語を学び、日常英会話の基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 病院内で使われる専門的用語	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 英語での初診患者への対応、家族歴、既往歴、生活習慣などの問診について学習をします。			講義 講義・演習
2	2~5回 授業進度に合わせて 系統別の部位・疾患・ 症状の英単語、	症状・疾患に関する問診について学習します。① (脳神経系・消化器系)			講義 ロールプレイ 復習単語テスト
3		症状・疾患に関する問診について学習します。② (呼吸器・循環器系)			講義・ ロールプレイ 復習単語テスト
4		症状・疾患に関する問診について学習します。③ (骨・筋肉系)			講義・ ロールプレイ 復習単語テスト
5		症状・疾患に関する問診について学習します。④ (腎・泌尿器系)			講義・ ロールプレイ 復習単語テスト
6	検査説明に必要な英単語	検査を説明するための英会話について学習します。 (採血・採尿・X-P 検査時の説明)			講義・ ロールプレイ 復習単語テスト
7	看護場面に必要な英単語	バイタルサイン測定時、看護ケア時の英会話について学習します。			講義・ ロールプレイ 復習単語テスト
8 (45分間)		試験			
テキスト	植木武：看護英会話入門 第3版 (医学書院) 講師資料				
参考図書等	Vital Signs<Revised Edition> ホスピタルイングリッシュ<改訂版> (南雲堂)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	医療と経済	単位数	1	開講時期	3年 後期
学習目標	わが国の健康保健の現状および将来の展望について理解するとともに、医療が抱える経済的諸問題を知り、医療に携わる側、患者の側の両面から対策を考察できるように、医療経済学として特に医療に関する経済的諸問題とその対策を学び、医療従事者の一員として医療の経済面に関心と意識が高まることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおくこと	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方)			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	経済学の一般理論について学習します。			講義
3		医療と関連した社会保険制度による経済状態について学習します。			
4		医療の保険制度と経済について学習します。			
5		医療費の考え方、医療費の問題点について学習します。			
6		医療サービスの経済的特性について学習します。			
7		これからの医療と経済について学習します。			
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 医療概論 (医学書院) 講師資料				
参考文献等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護英語文献講読	単位数	1	開講時期	3年 後期
学習目標	英文の文献講読をすることで英語の読解力を養い、看護に関する文献活用に活かせることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) 医療・看護に関する英文の文献の種類について学習します。			講義
2	2回目以降 文献の単語の意味	看護に関する英語文献を講読、読解について学習します。			講義
3		医療・看護に関する英語文献の原著を講読する学習をします。			講義
4		医療・看護に関する英語文献の原著を講読する学習をします。			講義
5		医療・看護に関する英語文献の原著を講読する学習をします。			講義
6		医療・看護に関する英語文献の原著を講読する学習をします。			講義
7		医療・看護に関する英語文献の原著を講読し、感想をまとめる			講義
8 (45分間)		試験			
テキスト	NOTES ON NURSING				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	健康とスポーツ科学	単位数	1	開講時期	3年 前期~後期
学習目標	生涯にわたり心身の健康を獲得、維持する知識および方法について、スポーツを中心とした行動を通じて習得することを目標とします。また、将来にわたって様々な環境条件に適応し、生きるために必要な条件とは何かを探り、健康科学やスポーツ文化が果たすべき役割について理論と実践を通して理解を深めるとともに、看護の視点でスポーツを考え患者指導に活かし実施する能力の獲得を目指します。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容		授業方法	
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) スポーツ生理学について学習します。		講義	
2		健康と体力について学習します。		講義	
3		健康と運動について学習します。		講義・演習	
4		体力の測定と評価について学習します。①		講義・演習	
5		体力の測定と評価について学習します。②		講義	
6		体力トレーニング論について学習します。		講義・演習	
7		体力トレーニングについて学習します。		講義	
8		健康とライフスタイルについて学習します。		講義・演習	
9		有酸素運動と筋力トレーニング、ストレッチ運動について学習します。①		講義・演習	
10		有酸素運動と筋力トレーニング、ストレッチ運動について学習します。②		講義・演習	
11		ロコモティブシンドローム予防のための運動について学習します。①		講義・演習	
12		ロコモティブシンドローム予防のための運動について学習します。②		講義・演習	
13		生活習慣病と運動について学習します。①		講義・演習	
14		生活習慣病と運動について学習します。②		講義・演習	
15		まとめ・試験			
テキスト	講師資料				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				